

曼殊院門跡



曼殊院は、伝教大師によって延暦年中に開創され、その後天暦年間、是算国師のとき比叡山西塔に移り東尾坊と号した。この頃北野天満宮造営にあたり、是算国師が菅原の出ということで初代別当職に補せられ、以後別当職は明治まで続いた。天仁年間に曼殊院と改め、文明年間に慈運大僧正が入寺して以後曼殊院は門跡寺院となる。明暦二年御所北あたりに移転していた曼殊院を第二十九世良尚法親王が奏請し、この地に堂宇を構営され現在に至っている。庭園や建築の中に古今和歌集の文学精神を取り入れ、造営されたのが桂離宮と曼殊院であるといわれるが、良尚法親王は桂離宮を造営された八条宮智仁親王の第一皇子である。現在も桂離宮の美の流れを脈々と継承して、静謐なたたずまいを今に残す。

曼殊院門跡

住所／京都市左京区一乗寺竹之内町42
電話／075-781-5010
拝観時間／9:00～17:00(受付16:30終了)
拝観料／大人600円 高校生500円 小中学生400円
八窓軒茶室1000円